

第24回 図書館とともにすすめる まち・教育・情報の未来



図書館総合展2022

— ONLINE — **plus** (おんらいん ぷらす)

出展説明会

「学校図書館のみなさんとつながりたい」編

図書館総合展運営委員会

お問合せ先：LF@j-c-c.co.jp

■本日のすすめかた

- だいたい1時間を予定。
- 見逃し視聴の方用YouTube公開のため録画させていただきます。
- ご質問は、zoomのチャットか（できるだけ時間内に回答）
- 共有ドキュメントか（詳しく回答） <https://bit.ly/3IITLXs>
時間中にお答えしきれないもの、またより詳しい回答を、説明会后、共有ドキュメント上におきます。
- お問い合わせへ（こっそりっぽい問い）
<https://www.libraryfair.jp/contact>
- 小展へのご要望も同様です（◆wish◆）
- 挙手発言も受け付けます（ミュートを外してお声かけを）

■本日の説明会

- 本日のすすめかた
- (初めての方には) 小展ご紹介 (おなじみの方にはおさらい)
- 今年の開催形式と力点
- **学校図書館関係者の来場が増えています**
- **学校図書館とおつきあいでください…なぜかというと**
- **さて、学校図書館のみなさんからのご要望**
- **たとえばこの企画枠から**
- 開催までのスケジュール

■小展ご紹介（これまでの振り返り）

- 小展は（2019年まで）毎秋、パシフィコ横浜（ホールD+アネックス）を会場に、3日間の会期、のべ3万人の来場、300～400の出展、90の講演で開催してきました。館種を越え、立場を越え、テーマを越えて集まる図書館イベントは他には多くなく、この種のコンベンションでは日本最大です。
- 2020年からは時世の影響を受け、コンテンツ（展示・イベント・ワークショップなど）を全面オンラインにして開催しています。会期は1カ月間（後述：出展者さまのPRご利用は1年間可です）。限定コンテンツもみられる登録ユーザーは、2022年5月末時点で14,254となっています。
- オンライン化の経緯と収穫については、**CA1996、「社会教育」2021年11月号**にご報告させていただいております。

■今年開催形式と力点

1. 期間内ひいては年間通じた作戦でPRできる **オンライン開催**
2. 司書のひとり一人、全国各所が会場になる **サテライト会場開催**
3. ひさしぶりと新たな出会いで次を拓く **カンファレンス会場開催**

の3本立てです。

【力点】

「雪解けの水は美味しい」「久しぶりに会うあの人はいい人」

「**今年**の**出会い**は**値千金**」という感覚、時の利をおおいに味方にしてください、しましょう。

■運営委よりご提供するもの／ しないもの、出展者にご用意いただくもの

- ご提供するものは、**場とインデックス**、**広告・広報・告知**、**場の盛りあげ**、**機会**です。
- サーバー上に**出展団体ページ**と**イベント案内ページ**ほかをご提供します。その外つまりリンクで自社サイトなどに拡げるのはもちろん自由です。
- **イベント（フォーラム）は各自で制作していただき（YouTube、Teams、Zoomなど）、小展サイト内でリンクを示すしくみです。**
- ご提供するページは、各出展者が**随時編集**できるかたちです（wordpress程度の作業）
- **開催案内冊子**（タブロイド判、9月下旬発行）、**メルマガ**（週刊、36,400件）、**SNS**でご出展とイベント情報を拡散します。
- **運営委員会主催企画**も使い倒してください。

(といつつ)

■ほんとうにご提供するものは

- 出展者さまが内部外部の各方面へする **ご説明**の肩代わり
(と責任転嫁)
- **失敗**していい機会
- **きっかけ**

■昨年からのupdate

1. 公式webサイトのPR利用が、年間お使いいただける体制になりました。
2. 「サテライト会場」の実施内容が、より“自由”になりました。
3. 「見学会ONLINE」は発展的解消します（サテライト会場企画に吸収）。
4. 会期中2回程度、1dayの集合会場（カンファレンス）を設けます。
5. ブースツアーONLINEを拡大運用します。
6. アカウント登録とメルマガ登録が一体化しました。
7. マイアカウント管理を変更しました。
8. 出版社がオンラインの本展にも入ってきます。
9. 対外拡大政策をすすめています。

★詳細は5/25「引き続きご出展の皆さまへアップデートした点などを」回の記録で

■学校図書館関係者の来場が増えています

- パシフィコ会場での平日・日中の開催では、ご来場が難しかったもの。それまでは、ほぼ「東京や神奈川の私立」「各社・団体に講師として」「有志で弁当」という印象だったものが、小中高それぞれから地方からもご参加いただいております。
- ※会場来場者とサイト登録者との比較になりますが、
- 5%→10%のup
- 視聴（以前で言うくと来場）だけでなく、出展・企画参画も増えています。<https://www.libraryfair.jp/forum/2021/114>
- ここを起点に、自主学習グループも起こっています。<https://www.libraryfair.jp/forum/2021/116>

■つきあってください… …なぜかというと

1. (個々の予算は小さいが) 館数は**圧倒的に多い**。
2. 一軒一軒訪問するのはたいへん。
3. **なかなか会えない**ひとたち
4. 学校図書館さんは、小さいながらも(ほぼおひとりで) **ひととおり全部をこなしておられる**ので…会ってお話を伺うとおもしろいです。
5. 「**他館種と情報交流、交歓することによる学び**」が小展のコアのひとつです。
6. **複数館種のひとがイベントに含まれると話される中身が厚くなる**。
7. 利用者がひと括りなようできて**多様**=公共図書館にも通じます。
8. GIGAスクールや探究的な学びで注目。

■ さて学校図書館のみなさんからのご要望

“
○

- “匿名前提” で伺いましたので、忖度、斟酌なしです

■ さて学校図書館のみなさんからのご要望

“
○

- 匿名前提” で伺いましたので、忖度、斟酌なしです



■ 読ませたい←読まない子がいます

- 本の読み方を教えたい
- 子どもが本を楽しめるヒントが満載の本を読み比べたい
- 電子図書はこのあとどうなる？
- ヤングアダルト対策…

■ 「タブレット全員配布と図書館」のアイデアを！

- インターネット利用と図書館
- GIGAスクール構想の現実化について、モデル校の実践報告だけではなく、全てで学校での活性化を目指す意見交換などを
- 学校図書館の情報センター化に必要なことは？
- アクティブラーニング、図書館の授業との連携活動にもタブレット

■ グレーゾーンの子ら、すきまの子らに 学び支援を！

- 障害の枠組みに入らない子を…
- “先進事例”には現れにくいチャレンジング校は何をすれば…
- 読書バリアフリーの支援下にいない、「自覚はないけど読めない子」「困り感のない子」など
- 何かの検査や数値にひっかかってないと、サポートを受ける機会さえない。
- 具体的には、学校図書館のUD化の先進事例も知りたい。（読書補助具やLLブック等の資料以外で）気付けていないことが、いっぱいありそうです。
- 特に図書館において

■そして、インクルーシブな視点から、 図書館のユニバーサルデザインについて知りたい

- 読書補助具、LLブックや大活字本、デイジーといった、様々な利用しづらさに対応した蔵書といった事例は研修会などで見聞きする機会はあるのですが…、いま、知りたいのは、
- 普通高校や通級のある学校ではどんな事例がある？
- • 見やすいサインって？
- • 表示や発行物のルビって？
- • 資料提供の仕方 など…

■ 多文化サービスの学校図書館への落とし込みを

- 大学図書館やJICAなどの団体、専門図書館とも連携したい
- さまざまな国の洋書の選書や書誌データの管理方法などを共有させていただきたい
- 多文化サービスの事例→ 公共図書館、大学図書館、学校図書館
- 洋書の横断検索

★同様、「LGBTQ」「ジェンダー」視点をあらためて学校図書館への落とし込みを

■ひとり職場に情報と選択肢を！

- 公立小学校・中学校の学校図書館に勤める司書は非正規率が高く立場が弱い
- 情報がキャッチできる人とそうでない人がいる。孤立しやすい
- 研修は自力で情報を得て自腹で勉強に行かなければならない。
(自治体研修がないところが多い)
- たとえば、学校図書館の蔵書管理システムについて…など。
- すでに利用していると、競合からの情報は入りづらい。そのため、各社の新しい学校図書館向けサービスを集約させた紹介サイトがあると、広報効果が高いと感じる。

■ 学校図書館や学校司書、外へ

- 学校図書館と地域との繋がり
- Googleツール活用などをつうじて外へ発信
- 学校図書館と公共図書館が併設されていて、学校図書館として使われていない時間に公共図書館として開放されているところなど…事例を

■ ICTやオンラインイベント運営技術を 求められる学校司書

- ハイブリッドのイベントの方法論、ワークショップを。
- 『学校司書が生配信デビューしてみるイベント』とか
- 個人だと、それだけの機材やノウハウを持っている人がなかなかいない。
- また、そのような機材やノウハウをもたずにイベントを実施するのに臆してしまう。
- 学習グループやノウハウ交換グループがあるといい…です

■ 学校図書館や学校司書がヨコで繋がれる イベントや交流の場を！

第24回 図書館とともにすすめるまち・教育・情報の未来
 **図書館総合展2022**
_ONLINE_plus (おんらいん ぷらす)

- SLGCや Facebookコミュニティ、学図研などさまざまなものがありますが、そこに所属していない方に周知したいし、新たに公立小学校司書、中学校司書が知り合えるコミュニティがあってもよいかもしれない。
- 素晴らしい実践を実施している学校は図書館総合展で紹介されるが、それとは真逆のお悩みを語り合える場はなかなか少ない。匿名座談会のようなもの、

■ ICTやオンラインイベント運営技術を 求められる学校司書

- ハイブリッドのイベントの方法論、ワークショップを。
- 『学校司書が生配信デビューしてみるイベント』とか
- 個人だと、それだけの機材やノウハウを持っている人がなかなかいない。
- また、そのような機材やノウハウをもたずにイベントを実施するのに臆してしまう。
- 学習グループやノウハウ交換グループがあるといい…です

■そして

- 土曜の午後がよいようです！

■ たとえばこの企画

「…どこから始めれば」と迷われておられる場合

- 学校司書さんのためのツアー-online 研修の一環として
- <https://www.libraryfair.jp/feature/2021/26>
- 学生協働サミットの的ななにか（事務局が協力します）
- <https://www.libraryfair.jp/forum/2021/214>
- 学校司書さん向けワークショップ
- <https://www.libraryfair.jp/forum/2021/116>
- （直前には）みちねこチャンネルOPイベント
- <https://www.libraryfair.jp/forum/2021/114>
- サテライト会場になる（ほかのサテライト会場とつながる）
- <https://www.libraryfair.jp/news/2022-05-11>

■開催までのスケジュール

- 5月23日：サイトリニューアル（年間イベント告知体制へ）
- 7月中旬：2022年ページに切り替わります。ここまでにお申込みいただければ最初からtop表示です（2020年以前のコンテンツはアーカイブ公開に移行します）
- **～8月31日：出展申込×切（開催案内冊子へ掲載するなら）**
- ～9月10日頃：開催案内冊子校了（イベント開催日・タイトル・「募集！」など掲載したい情報をこの日まで）
- **9月下旬：開催案内冊子全国送付（フォーラム受付開始）**
- 11月1日～30日：会期（特集日を設定）

■まずは

- お申込みを！
- 出展料：
一般 = ¥220,000 (税込)
非営利 = ¥110,000 (税込)
ポスター = ¥11,000 (税込)
- **お早めに！ 申込時より1年間、メルマガ・webページ・SNSをお使いいただけるからです。**
- **サテライト会場（後述）にもご登録いただけますと効果倍増です。**

■開催案内冊子

- 今年もタブロイド判4c8p構成（予定）です。
- 8月20日～9月13日頃まで編集、9月末全国発送です。
- 発行部数 30万部
- **紙面広告、折込広告についておってご案内します。**
- **図書館周縁、図書館外へのPR、問いかけを重点課題においています。**
- 今年はイベントページ配布数に制限がないので「9月9日決定分」までしか掲載できません。…配布後はwebサイトを参照していただくかたち。

■ 質疑応答など

- 個別の相談会も承っております。
- 質疑記録をこちらに残します（順次改訂）
<https://bit.ly/3IITLXs>
- この説明会の動画はこちらから
<https://www.youtube.com/channel/UCvKAycXbwtCFLrsdsZe89nA>
-

みなさまのご出展をお待ちしております。